



あやめだより

令和5年1月号

校長 戸田 太郎

新しい年を迎えました。本年もよろしくお願いいたします。

冬を迎える度、いわゆる「雪国」と言われる場所で過ごした時のことを思い出します。

帰宅時は、室内温が氷点下となっていて、部屋に置いてある缶のジュースは全て凍るほどです。そのため、凍らせたくない物は、冷蔵庫に入れていました。起床時も同じような室温で、布団から出るときには「寒い」と言うより「痛い」という感覚に近かったです。布団から出て、靴下一足の温かさが身に染みました。

雪の日が続くと屋根の雪かきをしたり、出かけるときにはつららが落ちてこないか上を見て外へ出て玄関の雪をかきました。今でも、玄関を出るときには、つい上を見る習性が時々出てしまいます。

また、吹雪の日は、寒いのと前が見えないのとで、大変な思いをして外出しました。しかし、その後に施設内で暖をとったり、一杯のラーメンを口にしたりすることで、心から幸せを感じることができました。同様に、それまで強く感じる事がなかった春の訪れへの喜びは、とても大きなものとなりました。猛烈に寒い冬があるからこそ、雪が溶け、桜が咲く、春の訪れの喜びをより強く感じる事ができたのだと、懐かしく思い出します。

長岡南小学校の校訓の一言目にあります「何くそ」は、困難に立ち向かい辛い思いをひたすら耐え忍ぶということではなく、困難を乗り越えた先に、幸せな生活が待っているということを伝える言葉だと私は解釈しています。

今年も子どもたちをはじめ、学校に関わる全ての方がが幸せに過ごせることを願っています。

素敵な1年になりますように。

